

地域医療連携だより

やまびこ

発行日：平成27年1月 発行：高山赤十字病院 高山市天満町3丁目11番地 TEL 0577-32-1111 発行責任者：地域連携課

本年もよろしく お願い申し上げます

高山赤十字病院病院長 棚橋 忍



新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお話し申し上げます。

当院が地域医療支援病院に指定されて3年が過ぎました。開業医の先生方、福祉、介護の皆さま方のご支援により、少しずつではありますが進歩してきていると思います。

厚労省は昨年より2025年問題の絡みで、多方面から医療制度改革を推進しています。そのキーワードは①医療機関の機能分化、②医療機関の連携、③在宅医療です。②の医療機関の連携をさらに推進するために、厚労省は平成26年度より地域医療支援病院の施設基準の基本である紹介率、逆紹介率の底上げを図って来ています。

これを受け、当院は地域連携を更に推進するためには、当院からの情報提供をより多く開業医の先生方にする必要があると考えています。そのために患者さんに広報するとともに、診療科を超えて情報提供を進めています。たとえば泌尿器科にて治療中の患者さんが内科医院に糖尿病で通院中であれば情報提供を行うことにより、内科治療の参考になればと考えています。腰痛で当院の整形外科に通院中の方が治療後かかりつけ医に情報提供をすることも患者さんにとって重要かと思えます。また、救急外来にて夜間等に受診された患者さんで、通院、入院治療を必要としない場合には可能な限り情報提供できるようにしていきたいと思えます。薬物療法の進歩にとともに、歯科治療の際に注意しなければならない薬物が増えており、歯科医師との連携も重要でと考えています。

本年も当院は地域医療支援病院として人材の育成、高度医療機器の整備、また地域の医療従事者の研修等を通して、ふるさとを守る医療を行って参ります。御意見、ご支援をお願い致します。

目次

- | | |
|------------------------------------|--------------------------------|
| ● 病院長 新年挨拶 …………… 1 | ● 岐阜大学医学部附属病院から感謝状を頂きました … 7 |
| ● 第24回 飛騨在宅酸素療法研究会開催 報告 … 2.3 | ● 研修・講演・勉強会のご案内 …………… 7 |
| ● がん化学療法に関する研修会開催 報告 … 4 | ● 新任医師の紹介 …………… 8 |
| ● 平成26年度世界糖尿病デー in高山 報告 … 4 | ● 退任医師 …………… 8 |
| ● 診療科の紹介 …………… 5.6 | ● 平成26年度 第3回地域医療連携検討委員会の報告 … 8 |
| ● 高山赤十字病院 開放型病床(オープンベッド)のご利用案内 … 7 | ● 編集後記 …………… 8 |

第24回 飛騨在宅酸素療法研究会開催 報告

平成26年11月15日（土）

飛騨在宅酸素療法研究会 代表世話人
高山赤十字病院副院長 兼 呼吸器科部長 西尾 優

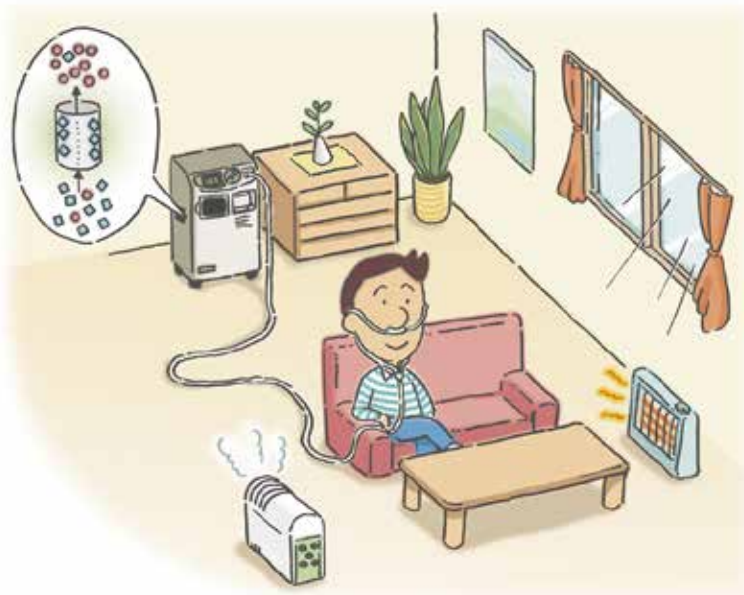


本年度も平成26年11月15日（土）、飛騨・世界生活文化センターにおいて同研究会を開催致しました。一般演題：1題、パネルディスカッション：『飛騨地域における在宅酸素療法患者の未来像～2025年問題を見据えて～』と称して、各立場（医師、看護師、理学療法士、訪問看護ステーション）から5題のご発表を賜りました。本邦において、1986年保健適応となり在宅医療としてのさきがけとして産声をあげた在宅酸素療法と、その5年後の1991年（平成3年）に発足し今年で24年目を迎えた当研究会のこれまでの歩みを振り返ると共に、2025年度へ向けた当地域での在宅酸素療法のあるべき或いはあってほしい姿を意識し、各々の職種や施設の立場で発表して頂き、参加者の皆様と活発なディスカッションを行いました。また、特別講演は、『呼吸ケアにおける患者教育：課題と展望』と題して、当領域の第一人者であります日本医科大学呼吸ケアクリニックの木田厚瑞先生からご講演を賜るとともに、『ピュアな形で継続している数少ない研究会』であるとお褒めのお言葉とエールを頂きました。今回、医師9名、看護師35名、保健師2名、理学療法士11名、臨床工学士1名、保健師2名、ケアマネ11名、介護士4名、その他2名、総勢77名と多数の方々に参加して頂きました。その後のアンケートでも大変意義深いご回答やご助言を頂き、ありがとうございました。

2025年にむけて、COPDをはじめとする慢性呼吸不全患者さんは、増加の一途を辿ると言われています。また、現在もそうですが、更に一層高齢者の二人住ま



い或いは独居の患者さんが増加することが予想され、これまで以上に地域全体で支えていく仕組みが求められます。ただ仕組みより前に大切なことと、現在の在宅医療は、全般的に『いかに最後をむかえるか』を求めているように思えてなりません。本来、在宅医療は、『どう生きるか』を求



めるべきではないのかなと思われます。患者さんの多くは、最初、在宅酸素療法を導入することを拒まれます。『酸素をつけたらおしまいや、もう終わりや』この言葉は、本邦で在宅酸素療法が始まった当初からの大きな課題であります。やはり、在宅酸素療法は、『もう終わりや』ではなく『これから楽しい生活が始まるんや、在宅酸素療法をもっと早く始めればよかった』というふうに患者さん・ご家族に思ってもらえるようにする、『いかに最後をむかえるか』ではなく『どう生きるか』をめざす。そのためにも在宅酸素療法や在宅人工呼吸器療法に関わる飛騨地域の全ての方々の認識の共有化を図るとともに、そのテーマにむけて智慧を集め行動していくことが重要と考えます。本研究会がその一助になればと思いこれまで継続して参りました。今後とも関係者皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



がん化学療法に関する研修会開催 報告

平成26年12月12日(金)

企画調整課長 登林 正規

平成26年12月12日(金)午後6時より、高山赤十字病院診療本館3階大講堂にて「がん化学療法に関する研修会(演題:固形腫瘍における発熱性好中球減少症の管理)」を開催しました。当研修は、「地域がん診療連携拠点病院」である本院がその関連事業として、毎年、計画的に開催しているものです。

研修には、三重大学医学部附属病院 腫瘍内科 副科長・講師の水野聡朗医師を招聘し、院内外35名の出席がありました。講演では、(1)発熱性好中球減少症、(2)初期治療①リスク評価に基づく抗菌薬選択②リスク評価の問題点、(3)予防①G-CSFの予防投与②抗菌薬の予防投与の三つのテーマについてお話いただきました。発熱性好中球減少症(以下、「FN」)には、①日本臨床腫瘍学会(JSMO)FNガイドライン2012、②ASCOFNガイドライン2013、③IDSAガイドライン2010の三つのガイドラインがあること。中でも、ASCOFNガイドライン2013では、経口抗菌薬で外来治療を開始する条件に、病院と患者が緊密に連絡できる環境整備をあげています。FN発症時の評価は最高26点、最低21点以上で低リスクの判定ですが、水野先生の診療科では、FN発症時に簡略化したscoring indexによる初期治療を実施し、患者自身による自己評価を推奨しています。講演後は、積極的な質疑応答がなされ、大変有意義な研修会でした。



平成26年度世界糖尿病デーin高山 報告

平成26年11月16日(土)

高山赤十字病院 糖尿病看護認定看護師 芥川 かおり

11月14日は世界糖尿病デーです。皆さんご存知でしょうか。

この日は、1921年にチャールズベストと共にインスリン抽出に成功した、フレデリックバンティングの誕生日です。インスリンの発見により、糖尿病治療は飛躍的に発展をとげました。また、糖尿病の脅威が世界的に拡大しているのを受け、世界規模で注意喚起をしようと国際糖尿病連合と世界保健機構によって、1991年に開始され、2006年には、国連の公式の日となりました。

高山では11月16日に社会医療法人厚生会 木沢記念病院の高見和久先生を招き「糖尿病を早めに見つけ、一病息災に努めましょう」講演を行い、合併症の怖さや糖尿病が身体に脅かす影響を、約80名が聴講されました。その他に、医師や薬剤師による療養相談や、理学療法士による糖尿病体操、栄養士による食事相談、検査技師や看護師による血糖・血圧測定を行いました。体操は、椅子に座っていても出来、簡単でしたが、10分間行った後は汗がじわりとにじみ、適度な運動となりました。

11月9日から16日までは、飛騨・世界生活文化センターで「幻想のライトアップ」が行われました。高山の夜は寒く空気が澄んでおり、ブルーのライトアップがとても綺麗に見ることが出来ました。

世界の糖尿病人口は、3億8,200万人といわれ、特に、アジアでは第1位中国9,840万人、2位インド6,570万人です。近年は経済成長や食の欧米化により、東南アジアでの増加が目立ちます。日本でも、糖尿病患者さんは増加しており、生活習慣が大きく関わっています。

この機会にご自身の生活習慣や食事を見直してみてもどうでしょう。



診療科の紹介

その1 歯科口腔外科

歯科口腔外科部長 大久保 恒正

1. 診療体制

口腔外科医2名（口腔外科専門医、歯科麻酔専門医、心療内科認定登録医、歯科心身医学会認定医）、歯科衛生士2名、医療補助者1名、歯科技工士1名（アルバイト）で診療を行っております。初診患者受付は午前11時までで御座いますが、御紹介や急患に関しましてはこの限りでは御座いません。

2. 診療内容

顎顔面口腔領域の悪性腫瘍・良性腫瘍・感染症・外傷（骨折を含む）・歯科心身症を中心に、インプラント、義歯や齲蝕治療に至るまでの治療を行っております。埋伏智歯（親不知）の抜歯手術や大きな嚢胞の摘出手術等は、必要に応じて入院下における全身管理下での手術も行っております。また、口腔ケアも積極的に実践しており、腫瘍の手術の前・胃瘻造設前・化学療法・放射線療法前に、他科からの依頼に応じた口腔ケアや緩和ケアにも積極的に参加させて頂いております。更に、近年のストレスフルな生活環境から惹起される心理社会的要因に起因する顎顔面領域の非器質性疼痛に対しましても、積極的に治療を行っております。

3. 医科の先生方へのお願い

棚橋病院長からの指摘も御座いましたが、歯科開業医の先生方は医科開業医の先生方に遠慮がちな面があるようで御座います。脳血管障害や心血管障害など重篤な基礎疾患を有する患者様の歯科治療時の抗凝固剤やBP製剤の内服薬に関しまして、あるいはステロイド剤や抗がん剤内服中の抜歯を含めました歯科治療時の問い合わせが中々円滑に行われていない現状が御座います。歯科医院からの問い合わせが御座いましたなら、速やかに優しく御対応して頂けましたなら幸いです。また歯科医院の先生方も、躊躇することなく医科の先生方に問い合わせをして頂くことが、最終的に患者様のためになることは言う迄ありません。もし必要で御座いましたなら、高山日赤・口腔外科が医科の先生方と歯科の先生方の窓口として御役に立てればと思っております。どうぞこれからも、病診連携あるいは診診連携に高山日赤・口腔外科を御利用頂けましたなら幸いです。



診療科の紹介

その2 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科部長 安藤 健一

高山赤十字病院耳鼻咽喉科は現在3名で診療をおこなっています。

今後はより専門性のある診療も取り入れていきたいと考えおり、4月から専門外来の開設を予定しています。専門外来はめまい外来、嚥下外来、睡眠時無呼吸外来とします。

- **めまい外来（担当：安藤健一）**

高齢化社会 ストレス社会においてめまい患者は増加しています。正確な診断や治療、適切なリハビリをおこなっていききたいと考えています。

- **嚥下外来（担当：内藤裕介）**

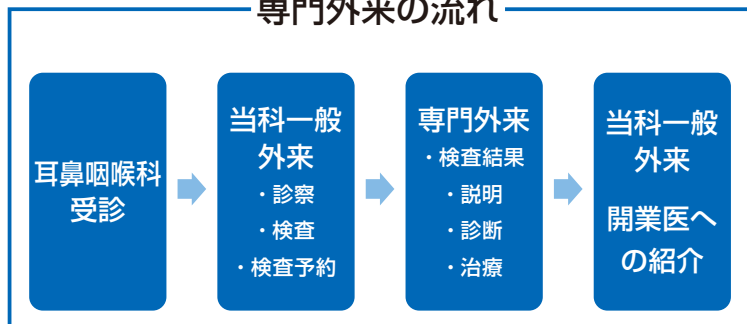
誤嚥も高齢化社会においてより今後さらに増加する病態と考えられます。耳鼻咽喉科医は頻回に咽喉頭を確認できるメリットがあります。嚥下透視などと組み合わせ、他科やリハビリとの連携を取りながらの診療を考えています。

- **睡眠時無呼吸外来（担当：高島隆）**

肥満傾向が進む現在、睡眠時無呼吸患者が増加しています。またアジア人特有の顔面形態も睡眠時の気道狭窄に関与していると言われていています。検査結果から振り分けられた治療法を選択するだけでなく、その患者の病態を的確に診断しその患者にあった治療法の選択をしていきたいと考えています。以前より手術治療を選択する場合は少なくなっていますが軽症例に関しては手術治療が有効と考えられる患者もいると考えています。

専門外来の診察は一般外来を受診し、問診、必要な検査などをおこなった後に専門外来の予約をします。専門外来での診断、治療法の決定後は当科一般外来や開業医への紹介も行っていきます。

専門外来の流れ



高山赤十字病院 開放型病床(オープンベッド)のご利用案内

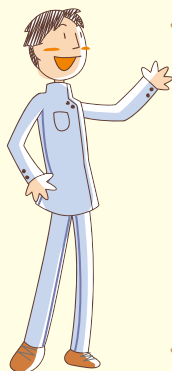
医療社会事業部 地域連携課

当院においては、飛騨地域の医療連携をより円滑に行うための体制づくりの一環として、平成22年6月から当院の病床を地域の先生方に開放する「開放型病床(オープンベッド)」を設置しています。開放型病床は病床数5床あります。地域の開業医・診療所の先生方に開放し、当院医師と共同して診療を行うものです。主治医は当院医師とし、入院期間中に最低1度来院していただき、共同で診療に当たることとなります。入院が必要であり、退院後もかかりつけ医として診療していただける患者様が対象となります。

紹介時、「診療情報提供書」に開放型病床(オープンベッド)希望と明記していただきます。診察後、入院が決定した場合には、開放型病床入院患者様とさせていただきますご連絡させていただきます。

手続きおよび運用に関してのご案内は地域連携課でさせていただきます。お手数ですがご連絡いただければ幸いです。

今後、開放型病床をご利用いただき、かかりつけ医様との連携で、患者様に安心して喜んでいただける医療を提供していけるようご協力をお願いいたします。



この度、地域医療に貢献
したとして岐阜大学医
学部附属病院から感謝
状を頂きました。



研修・講演・勉強会のご案内

- ・「第11回 高山赤十字病院 市民公開講座」
H27年 2月10日(火) 13:30より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「高山赤十字病院 平成26年度 第1回院内合同研究発表会」
H27年 2月12日(木) 17:45より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「第17回 地域連携症例検討会」
H27年 2月18日(水) 19:30より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「第4回 地域連携講演会・意見交換会」
H27年 2月21日(土) 16:00より 場所：ひだホテルプラザ
- ・「介護福祉従事者を対象とした地域介護研修会」
H27年 3月8日(日) 14:00より 高山赤十字病院 本館3階 講堂
- ・「高山赤十字病院 平成26年度 第2回院内合同研究発表会」
H27年 3月12日(木) 17:45より 高山赤十字病院 本館3階 講堂

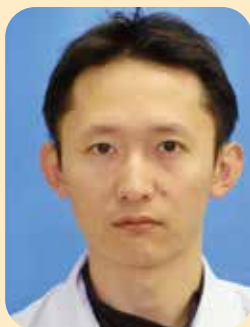
※詳細は、追ってご案内いたします。

新任医師 の 紹介

- ① 診療科・職名
- ② 氏名
- ③ 専門分野
- ④ 専門医・認定医
- ⑤ 診療に対するモットー
& 自己紹介 など



12月に1名の医師が赴任しましたので、ご紹介致します。



- ① 循環器内科
- ② **馬場 慎也** (ばば しんや)
- ③ 循環器内科一般
- ④ 日本内科学会 認定内科医
- ⑤ 岐阜大学医学部附属病院から来ました。

飛騨地域の医療に貢献できるよう頑張りますので宜しくお願い致します。

退任医師

循環器内科医師 川口 智則 12月15日付 産婦人科副部長 小倉 寛則 12月31日付

平成26年度 第3回地域医療連携検討委員会の報告

標記委員会を11月26日(水)に開催いたしました。

地域医療連携検討委員会は、地域医療機関等からの要請に対応し必要な支援を行えるよう定期的に開催される委員会です。

委員会では紹介率・逆紹介率、地域連携の現状などの業務実績や、岐阜県がん在宅緩和ケア2015年度版アンケート調査内容について報告をいたしました。

意見交換では、在宅医療の推進について委員の方からご意見を頂きました。

編集後記

明けましておめでとうございます。私は平成26年10月より入院サポートセンターに勤務している道洞と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今年度は病床も再編成され、医療現場においても先を見据えた取り組みが始まります。地域包括病棟や回復期リハビリ病棟と地域との連携がさらにみつになり、住み慣れた地域でその人らしく暮らせることを願っています。

入院サポートセンター 道洞 淳子



日本赤十字社

高山赤十字病院
地域連携課

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

〒506-8550 岐阜県高山市天満町3丁目11番地
TEL : 0577-35-1880 FAX : 0577-32-1165
メールアドレス byoshin@takayama.jrc.or.jp
ホームページ <http://www.takayama.jrc.or.jp/>